

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">Di/iD</p>	<p>あなたはiDスタイルですから、人前に立つことを苦にしないと思われれます。むしろ、好んで人前に出るでしょうし、注目の的になりたがりです。このことは、伝えようとするテーマについて熱意とエネルギーをもたらすべきファシリテーターとして、大きな強みとなります。ただし、グループの雰囲気を読み取って、控えめな人たちに対しては、多少エネルギーを抑える必要があります。これには、身振り、口調、声の大きさなど、相手の振る舞いをそのまま投影する、ミラーリングというテクニックを実践すると良いでしょう。おそらくあなたは、アドリブやその場の流れに任せて行動するのが得意なので、進行するグループについて事前に調べることに時間をかけたがらないでしょう。しかし、事前準備をすることで、自身の知識を活かして自身とは異なるスタイルのメンバーの多いグループにも順応できるようになり、非常に有効でしょう。例えば、グループに懐疑的な人たち(DiSCマップの左側)の割合が多いことが事前に分かっていたら、彼らに説明を求められても忍耐強く接することができるでしょう。あなたが提供した情報に疑問を持たれても、彼らにとってはそれが自然な反応なのであり、個人的な攻撃だと気を悪くしないよう、念頭に置いておきましょう。また、引っ込み思案でなかなか発言しない人に気付いて、そのような人たちをそっと殻から引き出してあげられるよう、気を配る必要があるでしょう。ワークショップにおいて、自分がしゃべるよりも参加者の話を聞くことに時間をかける、相手が納得いくまで詳細の説明をするなど、自身の心地よい範囲を出なければならぬ場合は、エネルギーを取り戻す必要があると思われれます。そうはいつても、ワークショップの進行役を務めること自体が、あなたにとってエネルギー源となるでしょう。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="text-align: center;">i</p>	<p>iスタイルのあなたは、人前に出てワークショップをリードすることがを得意でしょう。そして、多大なる熱意とエネルギーを持ってグループの人たちをひきつけ、またそれを楽しんで行うと思われ ます。あなたは人から認められたり受け入れられたりすることを強く望むため、懐疑的な人 (DiSCマップの左側)だらけのグループに直面した際には苦戦するでしょう。一方、話に花が咲 いて気をとられると、ついつい時間が経つのを忘れてしまいがちです。あなたは、タイム・マネジメ ントや整理整頓、そして詳細を把握しておくことが苦手かもしれません。そのため、ファシリテー ター役を務める際には、これらのことをある程度習得する必要があります。おそらくあなたは、そ の場で機転を利かせて判断するのは得意と思われませんが、計画性を持って行動することで、更 に幅が広がるでしょう。どのような人たちが集まっているのかを事前に知っておくことで、起こりう る問題点を予期したり、それをどのように処理すべきかを予測することができます。プロフィール やグループレポートを活用して、グループ中の誰が懐疑的で、あなたに挑戦的な質問を投げか けてきて進行を遅らせる可能性があるかを予測しておきましょう。そして実際にそのような状況 が生じた場合でも、彼らが懐疑的に振る舞っているのはあなたに対する個人的な態度ではなく、 あくまでもそれが彼らの情報処理の仕方であるということ覚えておきましょう。ワークショップ 後、通常とは違う行動をとったことで疲労を感じるようであれば、気分転換に時間を使うようにし ましょう。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">iS/Si</p>	<p>iSスタイルのあなたは、人前に出てワークショップで指導するのを楽しめるでしょう。あなたはもともと共感的なので、皆が心地よく感じ、心から参加してもらえるように気を配ります。あなたはDiSCが持つポジティブな意味、そしてそれによって人々がより良い関係を築けるようになることを評価し、そのことについて熱意を持って伝えようとするでしょう。一方、DiSCという考え方に対してあなたほど前向きな考えを持たない人たちは、ある程度懐疑的な態度を見せるでしょう。あなたが積極的で熱心な姿勢を見せるのに対し、彼らは冷静で客観的にみえるでしょう。彼らは、ワークショップにおいて、論理や事実よりもやたらと感情に訴えるようなアクティビティを嫌がるかもしれません。DiSCマップの右側に位置するあなたは、物事をすんなり受け入れるほうなので、自然と懐疑的になる人に面食らってしまうかもしれません。あなたはこのように、受け入れ易い性質なので、DiSCについて誤った表現や使い方をする人を正したり、反論したりするのをためらうでしょう。そしてこのような状況に置かれることが多発すると、緊張感が高まって、あなたの持つ価値観と矛盾する状況になってしまうでしょう。時には懐疑的に見られても、それが個人的な攻撃ではないことを念頭に置いておけば、柔軟に対応することができるでしょう。事前の備えは役立ちます。グループレポートを見て、どのようなDiSCスタイルの人たちが集まっているかを知り、予測される質問や態度に備えておけば、ワークショップの現場で対応しやすいでしょう。たとえば、ことあるごとに質問してくるような懐疑的な人たちに対処するなどして、ワークショップでいつもとは違う行動をとる必要があった場合は、気分転換に時間を使うようにしましょう。なぜなら、ストレス下では慣れない行動をとることがより難しくなるからです。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">S</p>	<p>あなたはSスタイルなので、表舞台に立つようなことはあまり求めませんが、ファシリテーターの役割を、「手助けして人の役に立てる手段」として高く評価するでしょう。あなたは他者のニーズにすぐ気づき、それらに何とかして対応しようとします。周りの人が興味を示したり、つまらなそうにしていたり、不快そうにしたりしているのをすぐに読み取ることができるでしょう。そしてグループの皆が心地よく感じ、心から参加してもらえるように気を配ります。あなたは和を重んじるため、あなたや他の参加者に対立的な態度を取る人に苦戦するでしょう。結果、摩擦を抑えて丸く収めようとします。参加者の中には懐疑的な性分の人もいて、あなたが提示するコンセプトの根拠や詳細な説明を要求されることもあるということを念頭に置いておくことも重要です。あくまでも、あなたが個人的な標的にされているわけでも、あなたのやり方が悪いわけでもないということを知っておくことが大切です。懐疑的な人も、受け入れざるを得ない説得力のある情報を与えられれば、満足するでしょう。「今すぐに回答できないので、調べてから後ほどお答えします。」という答えでも構いません。Sスタイルのあなたは、不意を突かれるのを嫌うため、心の準備を必要とします。プロフィールやグループレポートに事前に目を通しておけば、どのような質問をされる可能性があり、どのような態度の人たちが見受けられるかなどが予測できます。ワークショップで挑戦的な視点にさらされた後は、気分転換に時間を使う必要があるでしょう。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">SC/CS</p>	<p>あなたはSCスタイルですから、人前を出てワークショップをリードするのは好きなことではないかもしれませんが。なぜならあなたは、予測可能で安定した環境を好むのに対し、ワークショップでそのような状態を常に保つことは難しいからです。しかし、すでにお気付きかもしれませんが、前もってきちんと下準備をしておくなど、ある程度の予測可能性を担保できるテクニックがあります。あなたは、不意を突かれぬよう万全な準備を整えることを厭わないでしょう。DiSCマップ上、思慮深く注意深いあなたは、予期せぬ質問や状況に見舞われるのを好みません。参加者に事前に質問を投げかけておいたり、「それについては後ほど回答させてください。」と言ったりすることで、心に余裕を持つことができれば、ワークショップで不意打ちに合うことも少なくなります。とはいえ、ご存知のとおり、あらゆる不測の事態を常に予期することはできません。しかし、プロフィールやグループレポートにあらかじめ目を通し、参加者のモチベーション要因やストレス要因について考えることで、できる限りの準備をすることができます。参加者のスタイルを素早く把握して臨機応変な対応ができるよう、グループレポートを常に手元に置いておくといよいでしょう。ワークショップ後、通常よりもストレッチしていたと感じるようであれば、気分転換するのを忘れないようにしましょう。なぜなら、ストレス下では、許容範囲が狭まり、うまく順応できないからです。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p>	<p>あなたはCスタイルなので、人前に出ることに對して、あまり気が乗らないでしょう。しかし、自分の得意分野を披露するのが好むあなたにとって、熟知した分野を人に教えることは非常にやりがいを感じられると思われます。質問されて答えられないことがないよう、進行するテーマについてのあらゆる詳細を熟知すべく、万全の準備をしましょう。参加者は、あなたがどんな難関な質問にも答えられることに感心するでしょう。一方、万が一その場で答えが見つからないような質問をされた場合、あなたは多大なストレスを感じるでしょう。このようなCスタイルの誰もが危惧する状況を回避するために、「後程回答します。」と言うことを自分に許容するようにしましょう。この他にも、Cスタイルが苦戦しそうなこととして、あからさまに感情表現をする人との接触が挙げられます。客観性や論理を重視するあなたにとっては重要でも、このような人に事実や数値などの正確な情報ばかり与えても、あまり役に立たないと感じるでしょう。感情的な参加者には、その場で感情を表現しても大丈夫だと安心させて、気持ちを整理する時間を与えましょう。おそらくiスタイルやSスタイルの人は、思いやりや受け入れる姿勢に對してより反応します。このような体験の後には非常に疲れが出やすいので、お気に入りの本を読んだり、一人で考えにふけるなどして気分転換することが大切です。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p>CD/DC</p>	<p>あなたはCDスタイルですから、熟達することと能力があることを重視すると思われます。そのため、自分の専門分野を披露できる機会となるワークショップの場を楽しく感じるでしょう。また、参加者はあなたの厳然たる信頼性を評価すると思われます。あなたは自分に厳しく、他人にも同じように高い基準を求めて同レベルの熟知を求めます。基本原理を伝えたくてDiSCの正しい使い方を理解してもらうのは重要なことですが、批判的な態度を取ったり厳しくなりすぎたりしないようにしましょう。あなたのドットはDiSCマップの左側に位置しているので、感情的に思えるトピックやアクティビティが苦手かもしれません。話し合いが感情的な方向に向いてくると、より客観的な領域に戻そうとするでしょう。しかし、DiSCマップの右側にドットがある人たちからすると、あなたの態度は冷たくよそよそしく感じられるかもしれません。DiSCは他人を理解したり、人とコミュニケーションを図るための強力なツールであるということを念頭に置き、あなたにとって少し個人的すぎて心地悪さを感じたとしても、どんどん話し合いを進めるようにしましょう。事前にグループレポートやプロフィールに目を通しておけば、どのような人たちの集まりかが把握でき、それぞれのメンバーのスタイルに合った対応の仕方を予測できるでしょう。ワークショップで自分の普段慣れていない領域まで踏み込む必要があると予測される場合、後で静かに考えることのできる時間を作っておくと良いでしょう。なぜなら、ストレス下では、うまく順応することが難しいからです。</p>

ファシリテーターとしての DiSCスタイル	ファシリテーターとしての傾向性
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">D</p>	<p>あなたはDスタイルですから、余計な言葉を挟まず、率直かつ簡潔に情報を伝える傾向があります。目的をはっきりと持ち、それを達成させるために全力を尽くします。人はあなたのエネルギーややる気に関心するでしょう。しかし時には速度を落として、特にCスタイルのように分析的な人たちのために詳細を提示しなくてはならないこともあるでしょう。このような状況であなたは、予定を狂わされたと感じ、イライラしてしまうかもしれません。あなたは人を説得するのが得意であると思われませんが、時に意見のやり合いに没頭してしまい、「勝たなければいけない」という気持ちに駆られてしまうことがあるでしょう。iスタイルやSスタイルのように感情的で受け入れる人たちからすると、あなたは少し冷たくてよそよそしく見えるかもしれません。そして、彼らは自分たちが学んでいるDiSC原理のうち、特に対人関係的側面について詳しく聞きたがるでしょう。ワークショップにおいて、より感情的なテーマに話が傾いた場合、あなたはすぐに論理的で客観的な方向に戻したがるでしょう。あなたにとって、Dスタイルという領域内から踏み出すにはかなりの努力が必要でしょうから、事前に準備することが最善策です。グループがどのような人たちで構成されているか把握できるように、プロフィールやグループレポートに目を通しておきましょう。出てくるであろう質問や、参加者の参加態度などを予測できれば、それだけエネルギーが軽減され、その場の即興でうまく対応することができるでしょう。例えば、詳細が気になる人にはとりあえず簡潔な説明だけして、その続きは後で一対一で行うというような選択肢を示すという手もあります。このように対処することで、ワークショップのペースを崩すことなく、その人の希望にも沿えるというわけです。普段慣れていない領域に踏み込むことが必要となるような人たちと接しなくてはならない状況では、多少エネルギーが消耗されるということを理解しておくことが大切です。このような時には、必ず気分転換するのを忘れないようにしましょう。ストレス下では、慣れない状況にうまく順応できず、典型的なDスタイルのパターンに逆戻りしかねないからです。</p>